



宗谷港

Port of Soya

沿革

日本最北端の地「宗谷岬」の東に位置する宗谷港は、周辺地域の発展に重要な役割を果たし、1954年（昭和29年）に「避難港」、1972年（昭和47年）に「地方港湾」の指定を受けました。

1936年（昭和11年）から1938年（昭和13年）までの間、本格的な港湾建設に着手し、外郭やけい留施設を整備しました。沿岸漁業の経営基盤の拡充や地域の要請に対応するため、1958年（昭和33年）に工事を再開し、現在も着々と整備を進めています。

安全で質の高い港湾整備に加え、産業の振興と地域漁業者の生活環境の向上、隣接する宗谷岬公園と連携した「交流拠点づくり」を目指し、平成7年に3期に分けた段階的整備構想「宗谷港マリンタウンプロジェクト」を策定しました。

第1期（1995年（平成7年）～2008年（平成20年））では、宗谷岬から宗谷港への散策路等の歩行者アクセスや港湾緑



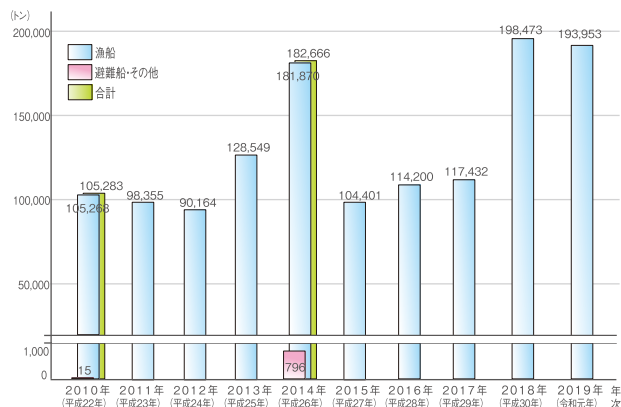
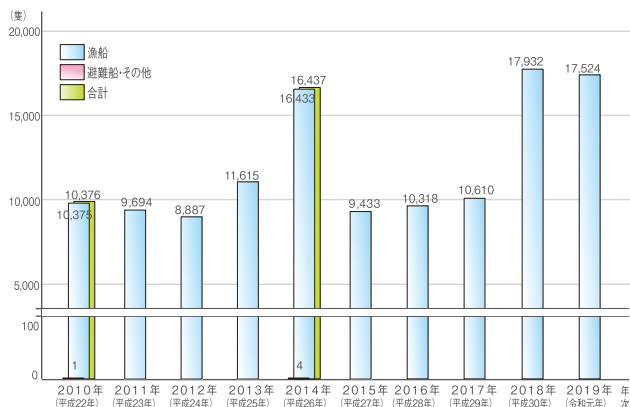
写真提供：稚内開発建設部

地、「にぎわい交流ゾーン」の核となる宗谷港交流拠点の整備が進められました。平成16年度には、親水プロムナード（全長138m）と宗谷港のシンボリック施設となる親水護岸（愛称：てっぺんドーム、全長120m）からなる護岸（防波）全長265mが完成しました。

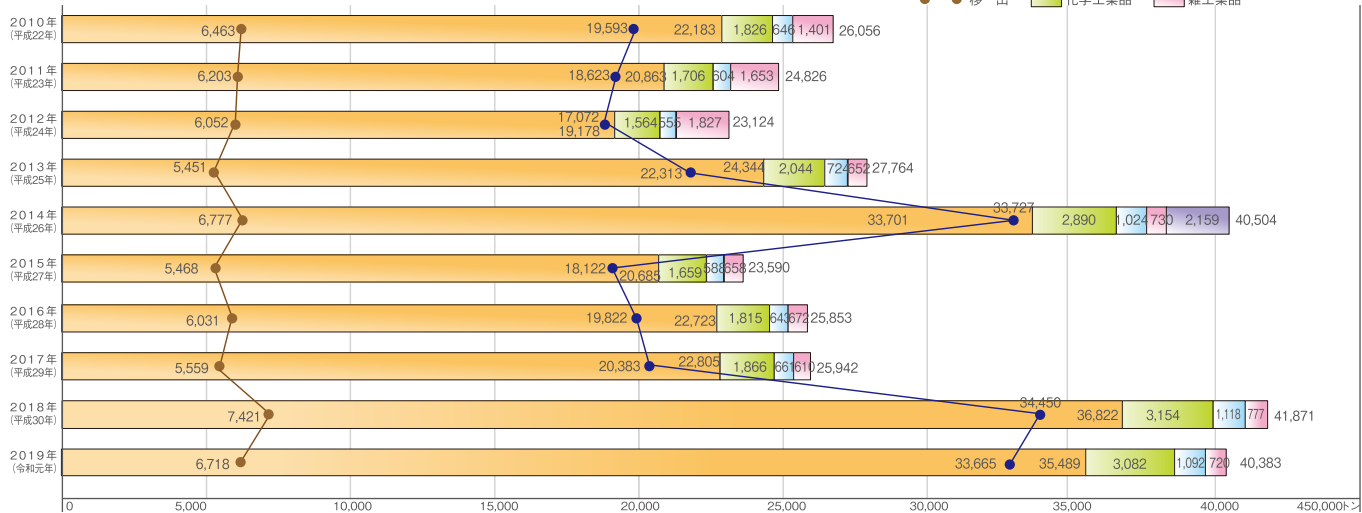
第2期（2009年（平成21年））から宗谷岬公園と宗谷港の導線や交流拠点形成、荷揚げや荷捌き関連施設の機能強化のために、緑地、物揚場・船揚場の整備・改良するなど、漁業と観光を柱とする地域の産業形態に適応できる整備計画を進めています。

入港船舶年次比較表

入港船舶年次比較表



海上出入貨物取扱年次比較表





宗谷港整備計画図

Port of Soya

